



東京文化発信
プロジェクト

TERA

高円寺—吉祥寺—国分寺駅周辺地域で展開するアートプロジェクト

— TERATOTERA —

Document
2014

TERA

テラトテラ 2014 ドキュメント

— TERATOTERA × 東京アートポイント計画

TERA

2014年度のTERATOTERAは、吉祥寺の老舗映画館バウスシアターがその長い歴史に幕を閉じるという驚きのニュースからはじまった。バウスシアターとTERATOTERAは、映像作品の上映をはじめトークやライブなど、これまで多くのコラボレーションを行ってきたが、なにより我々が事務局を置く吉祥寺において、長年にわたって映画にまつわる魅力的な企画を数え切れないほど私たちに贈り続けてくれた大先輩である。バウス閉館の知らせは本当に残念でならなかつたけど、最後にまたぜひ、なにか一緒にできたらと思い、絵描きの浅井裕介さんにバウスシアターの内壁と外壁へのペインティングを依頼、また10人の現代美術作家による10分の映像作品『10×10』を企画した。どちらも大盛況で、伝説の映画館の最後にTERATOTERAとして花を添えることができたかもしれない。

終わるものがあれば始まるものもあり。今年度はこれまでTERATOTERAと繋がりのなかつた2つの新しいスペースから共同企画のお話をいただいた。一つは、JR東小金井駅高架下に新しく誕生した「コミュニティステーション東小金井」。ここでは稀代のミュージシャンと若手アーティストの共演『TERATOTERA SOUND FES.』を開催。新しいスペースの船出をアートと音楽で飾つた。そしてもう一箇所、武蔵野市のゴミ処理場である武蔵野クリーンセンターから、施設の建て替えにともないアートイベントを開催したいとの依頼を受け、美術家の藤浩志さんの監修のもと「すべてたいけどすてられないモノ」を集めるプロジェクトが始動。『クリーンセンターと遊ぶ』と題した1日限りのイベントでは、ゴミをつかつた音楽ライブやワークショップとともに、100を超える「すべてたいけどすてられないモノ」が一堂に並んだ。

また自主企画においても、西荻窪の街にアーティストが一定期間滞在し、リサーチおよび成果発表を行う『西荻レジデンス』が始動。西荻の街にアートの種を蒔きはじめた。そして今年度の最後を飾つたのは、三鷹駅北口周辺地域で開催した『TERATOTERA祭り』。美術、音楽、演劇、映画、トークと盛り沢山の内容で、冬の三鷹の街を熱く彩つた。今回の祭りのメインテーマとなつたのは「Encounter -邂逅-」。「偶然の出会い」や「巡り合わせ」を意味するこの言葉は、今、振り返つてみれば、今年度のTERATOTERAの活動すべてに共通したテーマであった気もする。アートに予定調和はいつだつて存在しないのだ。TERATOTERAで起きた様々な「偶然の出会い」や「巡り合わせ」を、本ドキュメントを通じて感じてもらえたたらと思う。

TERATOTERA チーフディレクター 小川 希

TERATOTERA とは ?

TERATOTERA (テラトテラ) は、東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人 Ongoing が協働して、JR 中央線高円寺駅一国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。

TERAKKO とは ?

TERAKKO (テラッコ) とは、TERATOTERA のボランティアスタッフです。街中の展覧会、トークイベント、ライブ等、その企画・運営をテラッコが中心となって進めています。

東京アートポイント計画とは ?

東京アートポイント計画は、地域・市民が参画するアートプロジェクトを通じて東京の多様な魅力を創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。
<http://www.bh-project.jp>



1 はじめに

- 4月 **吉祥寺** 吉祥寺パウスシアター
武藏野市吉祥寺本町1-11-23
- 5月 **吉祥寺** 吉祥寺パウスシアター
武藏野市吉祥寺本町1-11-23
Art Center Ongoing(トークイベント)
武藏野市吉祥寺東町1-8-7
- 11月 **東小金井** コミュニティステーション東小金井
小金井市梶野町5-10-58
- 12月 **三鷹** 武藏野クリーンセンター内
プラットフォーム
武藏野市緑町3-1-5
- 西荻窪** 西荻レヂデンス
杉並区西荻北3-18-10 4F
- 2月 **三鷹** 三鷹駅北口周辺施設
武藏野芸能劇場(小ホール、小劇場)
東海大学望星学塾柔道場、レストラン喫茶上床
三鷹第一アパート、三鷹駅北口広場
- 4** TERATOTERA途中下車の旅17@吉祥寺
THE LAST BAUS × TERATOTERA 10×10 映画と映像と
2014年4月27日[日]11:20-13:30
- 6** TERATOTERA途中下車の旅17@吉祥寺
THE LAST BAUS × TERATOTERA
世界中の何でもないところに、大事なものは何でもなく隠れている
・5月9日[金]—17日[土]浅井裕介による滞在制作
・5月17日[土]—6月10日[火]無料公開
・6月27日[金]20:00-22:00.....トークイベント
- 10** TERATOTERA途中下車の旅18@東小金井
TERATOTERA SOUND FES.—音とアートが高架下に舞う—
11月8日[土]、11月9日[日]11:00-19:00
- 18** 武藏野クリーンセンター × TERATOTERA
クリーンセンターとあそぶ
2014年12月7日[日]12:00-16:00
- 26** 西荻レヂデンス
10月1日[水]—12月22日[月]リサーチ期間
12月19日[金]、12月20日[土] 12:00-20:00.....展示期間
- 30** TERATOTERA祭り Encounter -邂逅-
2月20日[金]—22日[日]11:00-19:00
- 40** 掲載情報・アンケート
- 44** 作家・ゲストプロフィール
- 47** おわりに



途中下車の旅17@吉祥寺

THE LAST BAUS × TERATOTERA 10×10 映画と映像と 2014年4月27日 [日] 11:20-13:30

参加作家

泉太郎、井出賢嗣、大木裕之、小鷹拓郎、鷺山啓輔
柴田祐輔、鈴木光、地主麻衣子、山本篤、和田昌宏

アフタートーク・ゲスト

宮沢章夫

会場

吉祥寺バウスシアター

協力

吉祥寺バウスシアター

Artist Profile...P.44



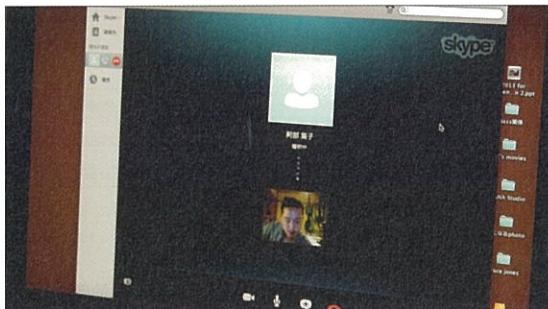
吉祥寺を代表する老舗映画館バウスシアターは、これまでTERATOTERAとのコラボレーションで映像上映や音楽ライブなどの会場ともなってきました。2014年5月末の閉館にあたり、終幕を飾る最後のコラボ企画とし行われたのが『10×10』でした。10人の気鋭の現代アーティストによる一人10分ずつの映像作品10本を一挙に上映する1日限りのイベントでした。

通常は美術館やギャラリーで流れる映像作品ですが、今回はバウスシアターで上映されるということを意識して制作された新作揃い。通常の映画館の枠にとらわれない斬新な試みに挑み続けてきたバウスシアターへの敬意がこめられたかのような、若手アーティストたちの意欲作が並びました。上映後には、劇作家の宮沢章夫さんを招き、アーティストたちとのアフタートークが行われました。(千葉佐奈子)



《Z》

鈴木光 Hikaru Suzuki



《阿部さん》

井出賢嗣 Kenji Ide



《純情テロリスト》

小鷹拓郎 Takuro Kotaka



私は心を許してと言うか

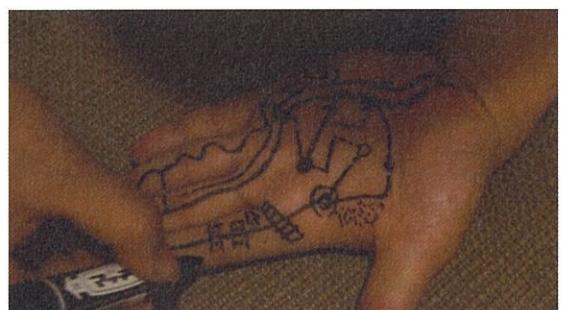
《ABOUT SEIKO FROM HER BEST FRIENDS》

柴田祐輔 Yusuke Shibata



《Defrosted Frozen Pizza》

和田昌宏 Masahiro Wada



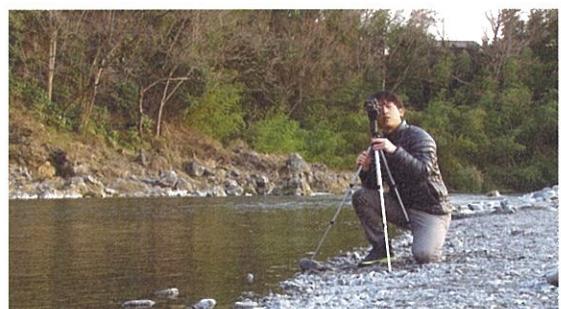
《夕刊》

泉太郎 Taro Izumi



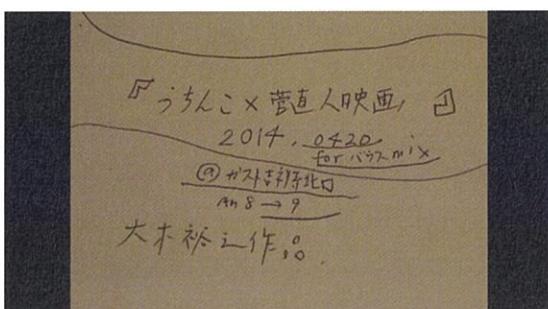
《A Voyage To The Chili Rain Season》

地主麻衣子 Maiko Jinushi



《MAN WITH MOVIE CAMERAS》

山本篤 Atsushi Yamamoto



《『うちんこ×菅直人映画』バウスマックス》

大木裕之 Hiroyuki Oki



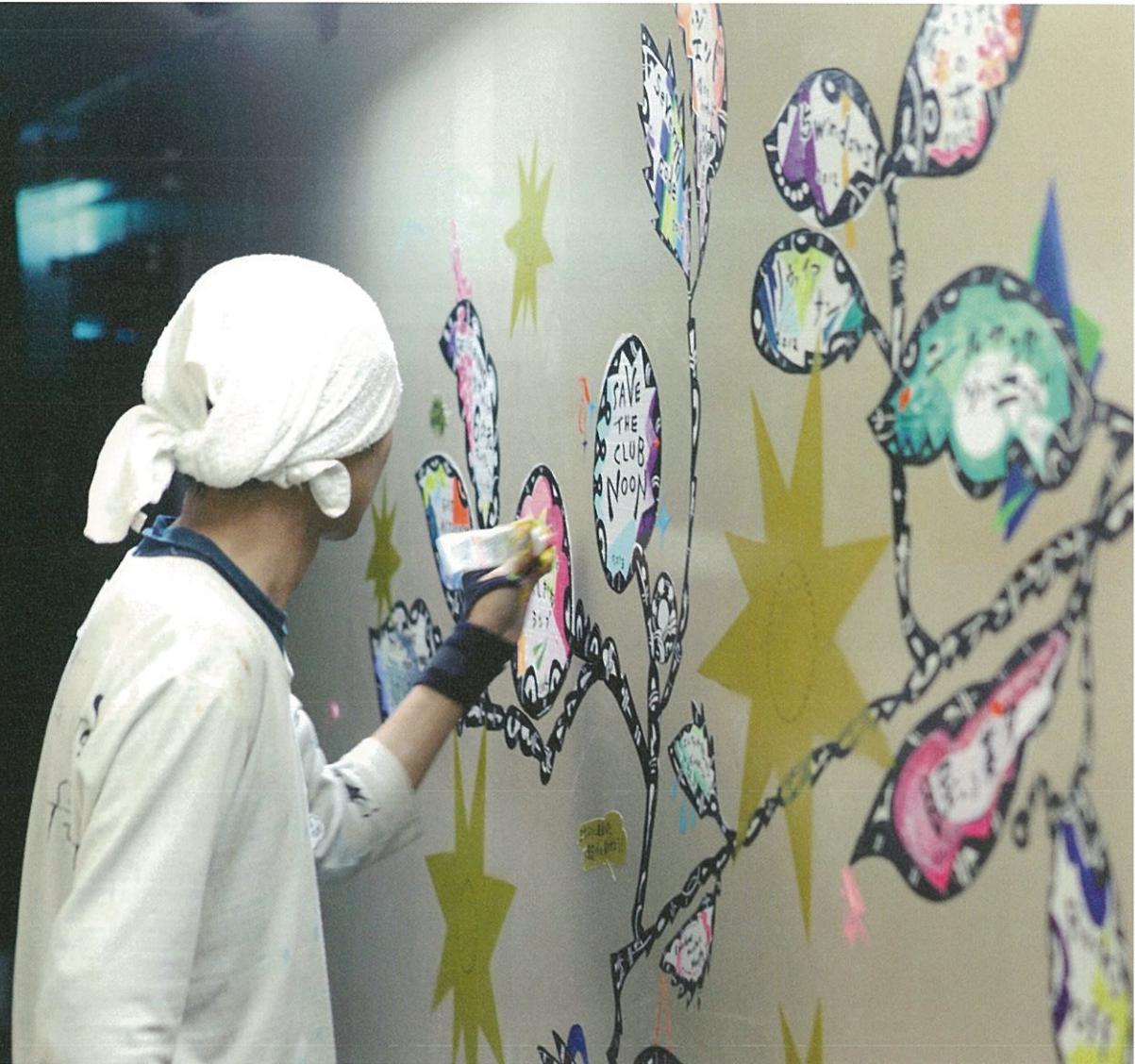
《白い紙船 2014》

鷺山啓輔 Keisuke Sagiyama

大事なものは何でもなく隠れている THE LAST BAUS X TERATOTERA

途中下車の旅17@吉祥寺

世界中の何でもないところに、



途中下車の旅17@吉祥寺

THE LAST BAUS × TERATOTERA

世界中の何でもないところに、
大事なものは何でもなく隠れている

2014年5月9日[日]—5月17日[土](滞在制作)
5月17日[土]—6月10日[火](無料公開)

アーティスト

浅井祐介 Yusuke Asai

会場

吉祥寺バウスシアター外壁および館内の壁

協力

吉祥寺バウスシアター

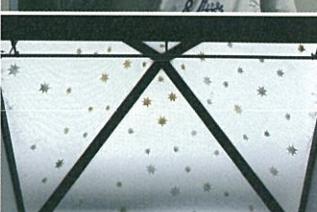
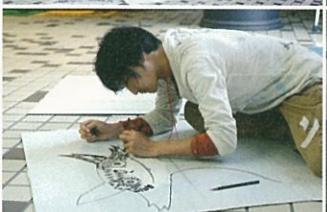
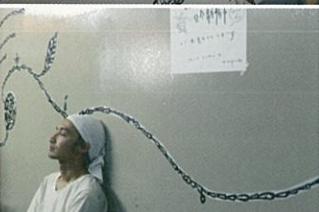
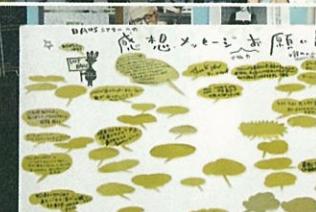
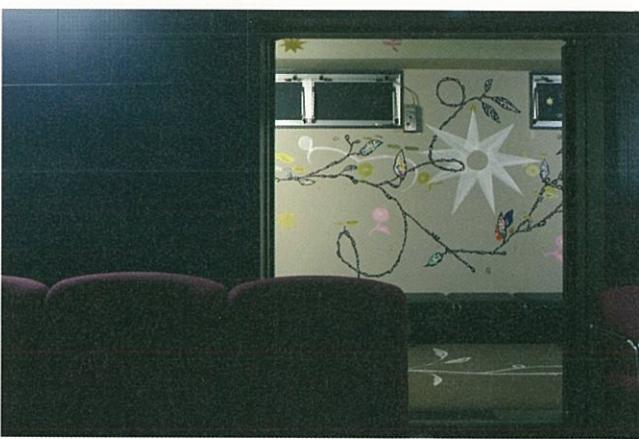
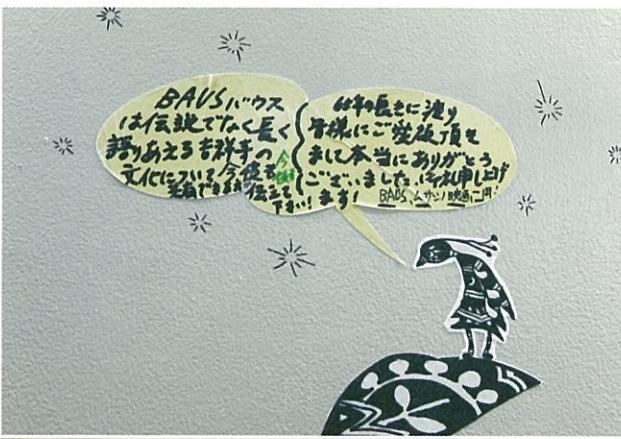
Artist Profile...P.44

長年、吉祥寺のまちに愛されてきた映画館「バウスシアター」が閉館することになった。

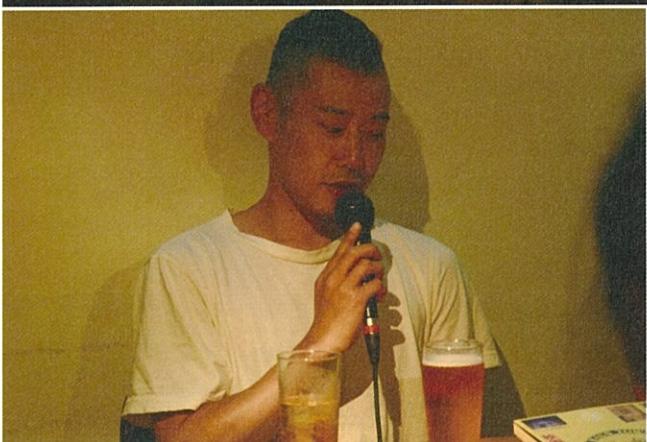
やがて壊される建物を舞台に、「場」の心を伝えるアーティスト・浅井祐介さんが壁画を制作した。劇場の壁を這うマスキングテープには、過去に上映された映画のタイトル。その周りには動物や花、星、妖精達が飛びぶ。劇場のそこかしこに隠れていたものたちを浅井が連れて来たかのようだ。あるいは壁や天井に染み込んだここだけの秘密が、浅井という靈媒の力で蘇つたのかもしれない。

映画館は目覚めたものたちのひそひそ話で少しの間賑やかだったけれど、最後の日に妖精がささやく。「さよならバウス」と。主を失った館に鳶が生い茂るように、彼らは建物を覆い、そこはもう誰にも入れない場所になってしまった。(前川純子)





世界中の何でもないところに、大事なものは何でもなく隠れているトークイベント



武川寛幸さん



浅井裕介さん

THE LAST BAUS×TERATOTERA

世界中の何でもないところに、
大事なものは何でもなく隠れている
トークイベント

2014年6月27日[金]20:00-22:00

登壇者

武川寛幸

浅井裕介

小川希

司会

細川葉子

会場

Art Center Ongoing

Guest Profile...P.44

バウスシアターとのコラボレーション企画として、美術家・浅井裕介さんが壁画を描いた「世界中の何でもないところに、大事なものは何でもなく隠れている」。その制作風景を撮り続けた写真家・細川葉子さんが発起人となり、本企画とバウスシアターの歴史を振り返るトークイベントが行なわれました。登壇者は、細川、浅井、バウスシアタースタッフの武川寛幸さん、TERATOTERAチーフディレクター小川希の4氏。バウスシアター最後のイベントに、会場は名残惜しむ多くの参加者たちで熱気に溢れました。(千葉佐奈子)



途中下車の旅18@東小金井

TERATOTERA SOUND FES. -音とアートが高架下に舞う- 11月8日[土], 9日[日] 11:00-19:00

アーティスト

滝空時間 影絵部（川村亘平斎, さとうじゅんこ, GO ARAi, トンチ）
灰野敬二, 山川冬樹, 林 千歩, 村田峰紀
山下拓也, 武藤亜希子

会場

コミュニケーション東小金井

協力

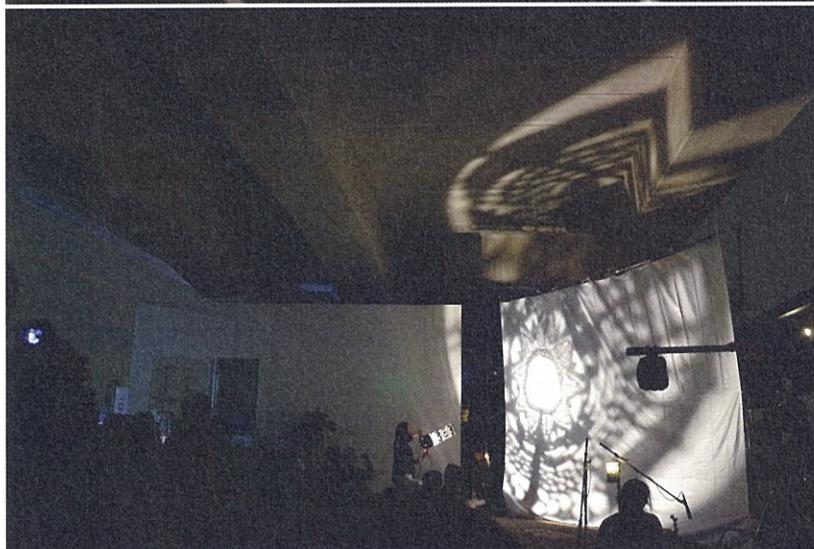
株式会社リライト

Artist Profile...P.45

JR中央線東小金井駅の高架下回遊歩行空間に完成したばかりのオープンスペース「コミュニケーション東小金井」にて、2日間にわたる音楽とアートの祭典を開催しました。

テラッコたちは夏の施工期間中から会場を下見に出かけ、参加アーティストも自分たちで選出しました。このフェスティバルは、今年度最初の大きなイベントであり、新しいテラッコたちにとって大変刺激的なものになりました。

会期中は冬の訪れを感じさせる寒さにもかかわらず、親子向けのワークショップや現代美術の展示に興味を示して立ち寄る人々が後を絶たず、夜のライブイベントでは高架下を幻想的な空間に変えた影絵や音楽にたくさんの観客が酔いしれました。（遠山尚江）



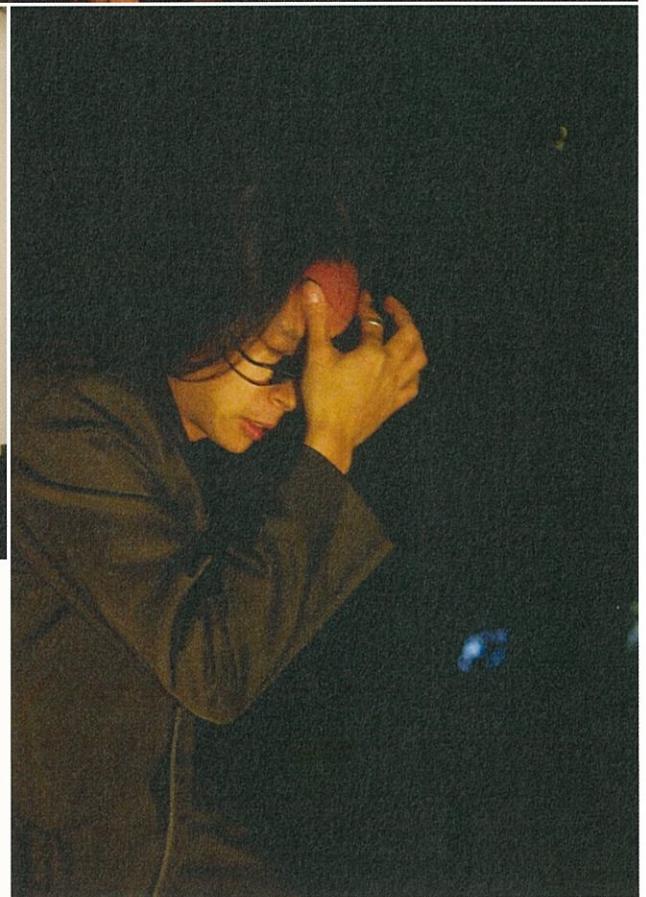
滯空時間 影絵部 *Taikuhjikang Kageebu*

滯空時間はインドネシアの打楽器と影絵を駆使するパフォーマンスユニット。今回は影絵部として、高架下に大きな幕を張り、影絵、バイオリンとガムラン、ジャワ民謡と多彩な演出を見せてくれました。子供たちは影を自由自在に操るパフォーマンスに夢中になり、大人たちは民族楽器の生演奏と生歌に耳をそばだっていました。高架下のコンクリートに反響し、無機質な空間が一気にノスタルジックな空間に変わりました。(東晶子)



灰野敬二 *Keiji Haino*

音楽界の「生ける伝説」的存在の灰野敬二さん。その姿を一目見ようと、会場には、あふれんばかりのファンが集いました。西欧に中世から伝わるという弦楽器「ハーディー・ガーディー」による幻想的な調べが、高架下の空間に美しく響きました。（畠中さおり）



山川冬樹 *Fuyuki Yamakawa*

山川冬樹さんはホーメイという唱法の歌手で、自らの身体を駆使するパフォーマンスアーティスト。今回も拳で胸を叩いたり、頭を壁に打ちつけたりと、心音や骨のぶつかる音を多用して、楽器を演奏するという圧巻のパフォーマンスを見せてくれました。（畠中さおり）

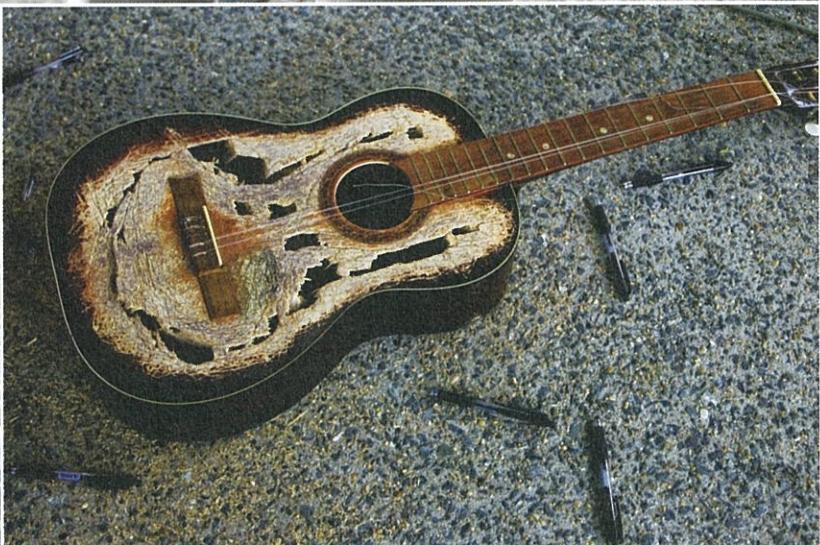


山下拓也 *Takuya Yamashita*

《木▶ビ▶磁メとポ&モ》《トリプル映画ソウル》

高架下のやがて店舗となる空間がポスター や置物、マグネットで埋め尽くされました。美術家・山下拓也さんによるインスタレーションです。床には雑多なモノが危なげに置かれ、壁にはポスターが必死にしがみついている。一見雑然と置かれているが、鑑賞者はいつのまにか山下の「既製品ワールド」に迷い込んでしまうのでした。

(東晶子)



村田峰紀 Mineki Murata 《強引な関わり方（集団による）》

高架下という特殊な空間に、自分にしかできない関係性を築く。村田峰紀さんのパフォーマンスはそんな試みだったようです。ひっそり始まったかと思うと、念仏のような唸り声を発しながら、ボールペンでガリガリとモノの表面を圧迫するようなドローイングへと展開しました。声と音が響き渡り、その後には強引に変形させられたモノが残される。非日常的な場面を作り出す、熱量の高いパフォーマンスでした。（後藤響子）



林千歩 *Chiho Hayashi* 《シバロナゴナ神》

寒さ深まる秋空の下、真新しい高架下に突如、ブルーシートに囲まれた禍々しい空間が現れました。美術家・林千歩さんによるインスタレーションです。ただならぬ雰囲気に戸惑う観客を前に、林が扮する奇妙な人物が現れ、謎めいた協力を依頼します。それは、ある“ヅツ”を誰にも見つからないように隠すこと。一見グロテスクな“ヅツ”、それとは対照的に、当惑しながらも楽しそうに手伝う観客の姿が印象的な作品となりました。(北川麻衣子)



武藤亜希子
なくしもの金
7~7:30
11:00~12:30
13:30~15:00
15:30~17:00



武藤亜希子 Akiko Muto 『なくしものテント』

大事な家の鍵、おもちゃ、情熱、自由な時間……。武藤亜希子さんのワークショップ『なくしものテント』は、記憶の中に埋もれた「もの・こと・場所」を、布や紙を使ってシルエットの形にし、浮かび上がらせました。子供も大人も、東小金井に暮らす人も初めて訪れる人も、それぞれが“なくしもの”に思いを巡らせ、ほかの人と物語を共有する。そんな温かなスペースが誕生しました。(掛谷泉)



武藏野クリーンセンター×TERATOTERA クリーンセンターとあそぶ

2014年12月7日[日]12:00-16:00

アーティスト

藤浩志 Hiroshi Fuji

山口とも Tomo Yamaguchi

会場

武藏野クリーンセンター内プラットフォーム

共催

武藏野市

Artist Profile...P.45

2017年のリニューアルに向け建て替え中のごみ処理施設、武藏野クリーンセンターと共同で、ごみをテーマにしたアートイベントを企画しました。

美術作家の藤浩志さんと話し合う中から、家庭にある「すべてたいけれどすべてられないモノ」にまつわるエピソードと実物を集めることに決定。地域の様々なコミュニティを訪ねて行なったインタビューと2回のプレイベント、公募などを通じて「すべてられないモノ」を収集しました。

当日はクリーンセンターのプラットフォーム(収集車がゴミを搬入する場所)に展示したほか、打楽器奏者の山口ともさんを迎え、廃材を利用した楽器作りのワークショップや演奏会、藤さんとのトークショーなども行いました。(千葉佐奈子)



ともとのガラクタワークショップ・ガラクタ音楽会

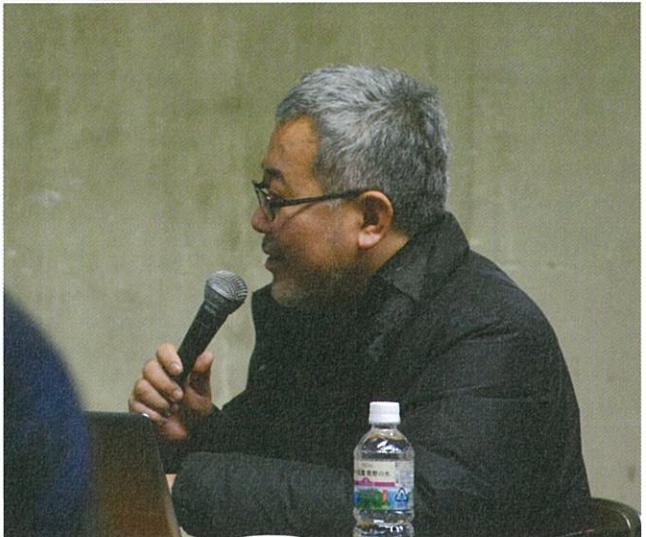
プラットフォームに山積みされたハンガー、鍋、バケツ、パイプなどのいらなくなつたものたち。はつきりいえば廃材。でも、みんな音を秘めている。それを教えてくれたのが、「廃品打楽器協会」会長の山口とも（通称：ともとも）さんでした。

ともともが廃材を鳴らすと、風景さえも変わるかのよう。そんな「廃材楽器」の響きに、子供から大人まで釘づけになりました。

廃材の組立て方は自由。参加者はみんな自分だけの音を奏でるためにオリジナル楽器を無我夢中で作りました。どんな音が出るかはわからない。でも、ガラクタだから生まれる偶然の音。廃材が息を吹き返し始めます。

最後はみんなで演奏会。それぞれの偶然の音が繋がり、会場が1つの作品になった瞬間でした。（大竹瑞栄）





藤浩志 × 山口とも トークショー

「クリーンセンターとあそぶ」の締めくくりとして、TERATOTERAチーフディレクターの小川希が藤浩志さんと山口ともさんを迎え、今回のイベントを振り返るトークショーを行ないました。廃材から作品や音楽を生み出すお二人の活動を紹介し、それにまつわる思い出話に花が咲きました。ごみへのこだわりにも話がおよび、すっかり意気投合したお二人。会場となったプラットフォームの「場」の力と今後の役割への期待も語られ、新たな展開に繋がるトークショーとなりました。（遠山尚江）



島森寿一《庭石の変化》

母が存命の頃、大きな庭石を購入（けつこう高価）し、和風の庭として楽しんでいました。時代が変わり、庭の使い方も変化し、庭石も沢山いりません。捨てることも出来ず、今、物置の土台として、石を少しづつ砕いています。



みしまはるき《子供の落書き》

保育園で子供が書いたラクガキの紙が捨てられない。子供はおそらくテキトーに書いたような気もするが、捨てることができない。このまま、とておくことも出来るとは考えないので、いつか思い切って捨てる日がくるのかも……。上に同じく服等も捨てられないので困る。



よこばあ《ボロケット》

孫が赤ちゃんの時のタオルをおしゃぶりのようにいつまでも使って、大人はそれをボロケットと言つたっけ。あまりにもボロになって廃棄した時の10cmくらいのボロケットをまだとつてあるんですよ。本人に見せたら恥ずかしがるかな？



Dan shary《ただの砂》

楽園のような青い海、白い砂浜。若かりし日の感動がつまたタヒチやニューカレドニアのビーチの砂。眺めては思い出を……のはずが、狭い日本の家の中で邪魔者扱いをされて早20年。今や洗面台の引き出しの奥という理由のわからない場所に放り込まれ、それでも捨てられないのはどういうわけか。やっぱり、もう二度と行けそうにないと思うビンボー根性のせい？（笑）

みみちゃん《小鳥の羽》

50年くらい前に飼っていた文鳥のこまちゃん、45年くらい前に飼っていたセキセイインコのるみちゃん、10年くらい前に飼っていたセキセイインコのみみちゃんの羽です。家族の一員としていつしょにすごした大切な思い出が詰まつていて、捨てられません。子供のときから使っている宝箱にしまってあります。



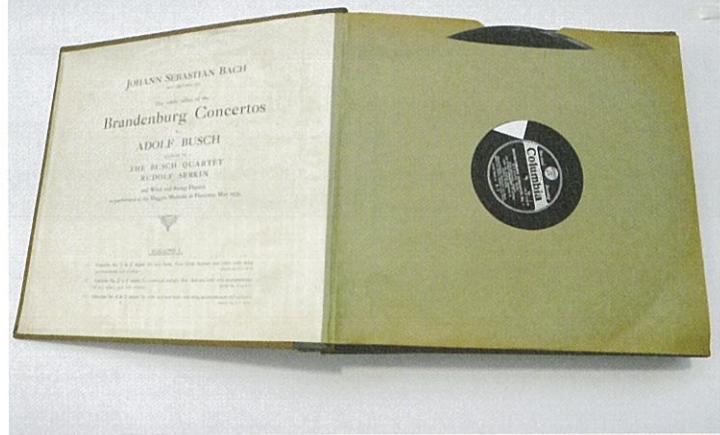
ヘルシア太郎《親子の絆》

自分のこづかいで初めて買った、お気に入りのグローブでした。その後、何回か買いましたが、残っているのは現在使用のものとこのグローブだけです。このグローブは、小学生のころ父とよくキャッチボールをしました。自分の息子が小学生になり、キャッチボールをしようと言われた時、しばらく眠っていたこのグローブを迷わず使いました。もうすでに父は他界していましたが、なんだか3世代でキャッチボールをしているような、不思議な気持ちになれる、ボロボロですが、大切なグローブです。

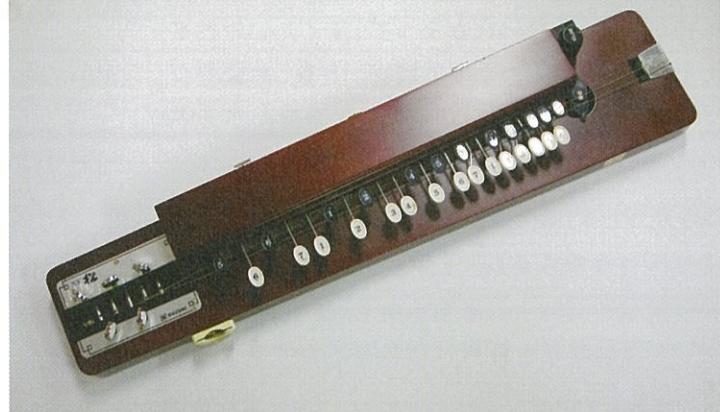


シガカズオ《SP レコード》

音楽の好きだった私の父は、私の幼少期にあの有名なレコード会社のワンちゃんのように“蓄音機”的スピーカーの前でSPレコードのレトロな音を楽しんでいました。その姿を見ていた私はいつの間にか父のまねをして音を聴く“子犬”となっていました。蓄音機は間もなく使えなくなりましたが、あのノイズの多いレトロな音は忘れられません。今では使えないSPレコードですが、捨てるに捨てられません！



リ☆ボンヤスキー《ばあちゃんの大正琴》
ばあちゃん愛用の大正琴。引き取ってはみたものの使われることなく押入れの中へ。何度も何度も捨てられそうになって、その度「いつか使うから」とまた押入れへ。先日押入れから出してみると、子供が興味を持って遊びました。きっとばあちゃんも喜んでいるね。





「すべてたいけどすてられないモノ」募集チラシを市内の各コミュニティへ配布、設置しました。

「すべてたいけどすてられないモノ」展開催まで

2014年7月、藤浩志さん、武藏野クリーンセンター、TERATOTERAの話し合いから、テラッコを中心に「すべてたいけどすてられないモノ集め隊(SSA)」が結成されました。だれもがひとつは持っている、思い出があつて「すべてたいけどすてられないモノ」とそのエピソードを、武藏野クリーンセンター周辺に住まれている方たちを中心に収集しました。

9月末から地道にインタビューを重ね、応募数は100件を越えました。集めたモノを展覧会というかたちでシェアすることで、その時代性や思い出を応募者と鑑賞者が共有する機会となりました。(千葉佐奈子)

SSA(すべてたいけどすてられないモノ集め隊)活動スケジュール

- 7月13日[日] 藤浩志さん、クリーンセンター、テラッコの話し合い[テーマ決定]
- 8月9日[土] クリーンセンター周辺リサーチ&打合せ
- 9月20日[土] けやきコミセンでのイベント「コミュニティカフェ茶社」にてインタビュー
- 10月11日[土] ... 昭和32年竣工の公団住宅、武藏野緑町パークタウンのお茶会にて
インタビュー
- 10月12日[日] ... プレイイベント『ごみから学ぶワークショップ広場』
場所=武藏野クリーンセンター
- 10月19日[日] ... プレイイベント『むさしの環境フェスタ』
場所=武藏野ブレイス
- ブレイイベントでは、SSAブースで、山口ともさんの作品展示、「すべてたいけどすてられないモノ」エピソード集めのワークショップ、プレ展示を行う。
- 12月7日[日] 『クリーンセンターとあそぶ』にて展示
場所=武藏野クリーンセンター



「すてたいけどすてられないモノ」展コメントツアー

テーブルいっぱいに並べられた、すてたいけどすてられないモノたち。武藏野クリーンセンターとTERATOTERAのボランティアスタッフが協力して地域の方から集めてきました。どれももう使えないものだったり、使い道に困るものだったり。でも、それぞれのモノに添えられたエピソードには、くすっと笑えるものや、じんわり心を温めるものも。持ち主の生きてきた証がしっかりと刻み込まれていました。藤浩志さんがひとつひとつのテーブルを回りながら「ああ、これはいいものですねえ」と話し始めると、それまで押入れにしまい込まれて光の当たらなかつたモノたちにスポットライトが当たり、すてようと思っていたものを改めて見つめ直せる、そんな展示となりました。（塚本加世子）



西荻レヂデンス

リサーチ期間

2014年10月1日[水]—12月22日[月]

展示期間

2014年12月19日[金], 20日[土]

12:00-20:00

アーティスト

小鷹拓郎 *Takuro Kotaka*

会場

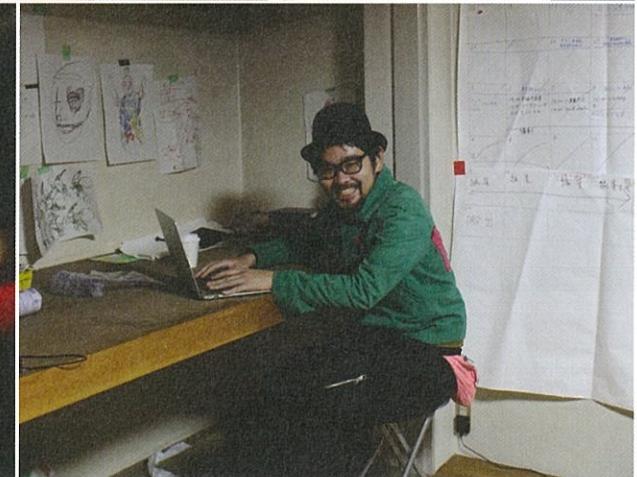
西荻レヂデンス

後援

杉並区

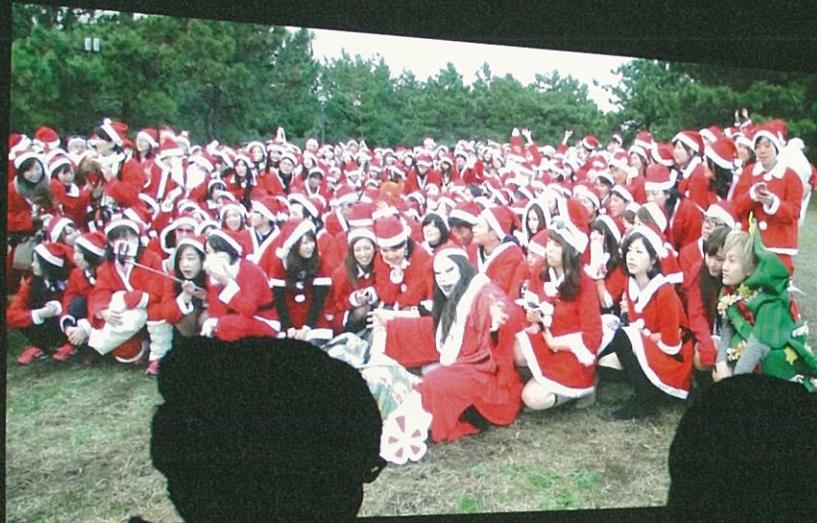
Artist Profile...P.44





「西荻レチデンス」は、約2ヶ月間、アーティストがJR西荻窪駅付近に滞在し、このまちを舞台に作品を制作、発表するプロジェクトです。まちの文化とアートの関係性、その間に生まれる表現の可能性を探ると共に、アーティストだからこそ見出せるこのまちの魅力を再発見することを目指しています。

記念すべき第1回は、映像作家の小鷹拓郎が2ヶ月の滞在とリサーチを経て制作した、西荻にサンタクロースが実在するという短編映画「西荻サンタクロース」を発表しました。映画中には、家具職人の五十嵐さん扮する白塗りのサンタクロースが登場。骨のようなプレゼントをつくり、行き交う人に配りました。(高村瑞世)



西荻レヂデンス 展示

《星降る聖夜、あなたのために乾杯を。》

小鷹は、西荻窪駅周辺のリサーチをしながら、「サンタクロースの映画を撮りたい」と西荻周辺に店を構える個性的な店主たちに出演依頼をし、7名の出演が決まりました。

小鷹のインタビューから引き出された、実在しないはずのサンタクロースに関する店主たちの証言は、「継ぎ接ぎの赤い服を毎年クリーニングに出してくれる」、「6畳一間の風呂なしアパートに住んでいた」など、アドリブとは思えぬほどリアリティー溢れるものでした。

小鷹の作品は、フィクションとドキュメンタリーを行き来しながら、わたしたちが知らず識らずの内に捕われている常識をユーモアを持って浮き上がらせます。「生きづらい社会」と言われるこの日常を軽快に渡り歩く小鷹は、今回もまた、知られざるパラレルワールドにわたしたちを連れ出してくれたのです。（高村瑞世）



《西荻サンタクロース》

2014年制作

監督……小鷹拓郎

撮影……高村瑞世, 東晶子, ニコニコ山脈

制作協力…千葉佐奈子, 秋葉大介

出演……幸福不動産, きらく園, フジクリーニング

八百富, BOBOLi, David & Jonathan

VIVACE カイロプラクティック, 五十嵐さん

特別協力…西荻案内所

TERATOTERA祭り Encounter—邂逅—



TERATOTERA祭り Encounter —邂逅—

2月20日[金]—22日[日] 11:00-19:00

アート展示

泉太郎, 出津京子, 太田祐司

東野哲史, 山本篤, 和田昌宏

映像上映

泉太郎, 井出賢嗣, 大木裕之

小鷹拓郎, 鶯山啓輔, 柴田祐輔

鈴木光, 地主麻衣子, 山本篤, 和田昌宏

ライブ

Jim O'Rourke, 巻上公一

パフォーマンス

指輪ホテル

会場

武藏野芸能劇場(小ホール, 小劇場)

東海大学望星学塾柔道場, レストラン喫茶上床

三鷹第一アパート, 三鷹駅北口広場

後援

武蔵野市

Artist Profile...P.46

TERATOTERA祭りは年度の最後を締めくりとして、2月20日～22日の3日間、三鷹駅北口徒歩5分圏内の5ヶ所で行われました。参加アーティストは16組。1日ごとに違うイベントが開催され、2014年度の集大成として大いに盛り上りました。また、テラッコに加えてイベント当日だけ参加するボランティアも多く集まり、スタッフが40人参加する2014年度で最大規模の運営体制となりました。

今回の特徴としては、完結した作品だけでなく、観客もしくはボランティアを巻き込むことで成立する作品が多く見られたことです。予想もつかないような展開、観客の戸惑いが各所に見られ、三鷹の街をアートがジャックした感がありました。(東晶子)



Jim O'Rourke

Jim O'Rourkeさんのライブはノイズを中心とした電子音を使ったものでした。彼が生み出す音を聞くことに会場の誰もが没入。そこが柔道場という音楽ライブ会場としては異質な空間であることを忘れさせるような音響空間を作り上げていました。

巻上公一 Koichi Makigami

口琴、テルミン、尺八といった様々な楽器を駆使した演奏に加え、ホーメイを基本としたボイスパフォーマンスは圧巻でした。たった一人でこれほどの音を生み出す巻上公一さんのライブは、おもちゃ箱をひっくり返したかのような楽しいものになりました。

セッション | Jim O'Rourke /巻上公一

ライブの最後に、即興演奏のプロフェッショナルである2人によるセッションが実現しました。TERATOTERAでしか見られない貴重なセッションは、2人の個性が絡み合い独特な空間を作りあげていました。（森聰史）





指輪ホテル Yubiwa Hotel

《白玉村始末記》

出演 = 羊屋白玉 *Shirotama Hitsujiga*

北川フラム *Fram Kitagawa*

TERATOTERA初の劇場公演となる指輪ホテル「白玉村始末記」が、伝統的な芝居小屋の風情を残す武蔵野芸能劇場で、上演されました。出演は、越後妻有や瀬戸内で芸術祭を手がけるアートディレクターの北川フラムと、指輪ホテル主宰の羊屋白玉。北川の少年時代からの歩みと信条、羊屋の劇作、指輪ホテルのスタッフワーク、そして劇場の魅力が巡り合い、ファンタジックで批評性に富んだ作品になりました。（遠山尚江）

劇作・演出 … 羊屋白玉

音楽 … SKANK/スカンク (Nibroll)

衣装 … いいじままゆみ

照明 … 伊藤馨

小道具 … 斎藤優衣（演劇活性化団体 uni）

着付け … 緒田かなみ

舞台監督 … 糸山義則（ステージクルー・ネットワーク）

舞台協力 … サカタアキコ

記録映像 … 杉田協士

記録写真 … 金子愛帆, Hako Hosokawa

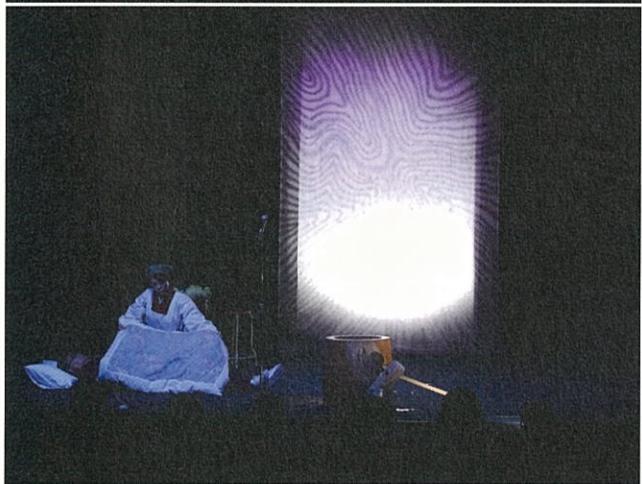
制作 … 糸山裕子（アートマネージメントセンター福岡 = AMCF）

王丸あすか (AMCF), 宮原清美

制作補助 … 小川希, ヨナタン・ゲロン, 奥谷愛美, テラツコ（遠山, 高村, 東, 阿部, 花谷, 滝本, 町田, 石橋, 前川）

協力 … 一般社団法人指輪ホテル, 公益財団法人武蔵野文化事業団,

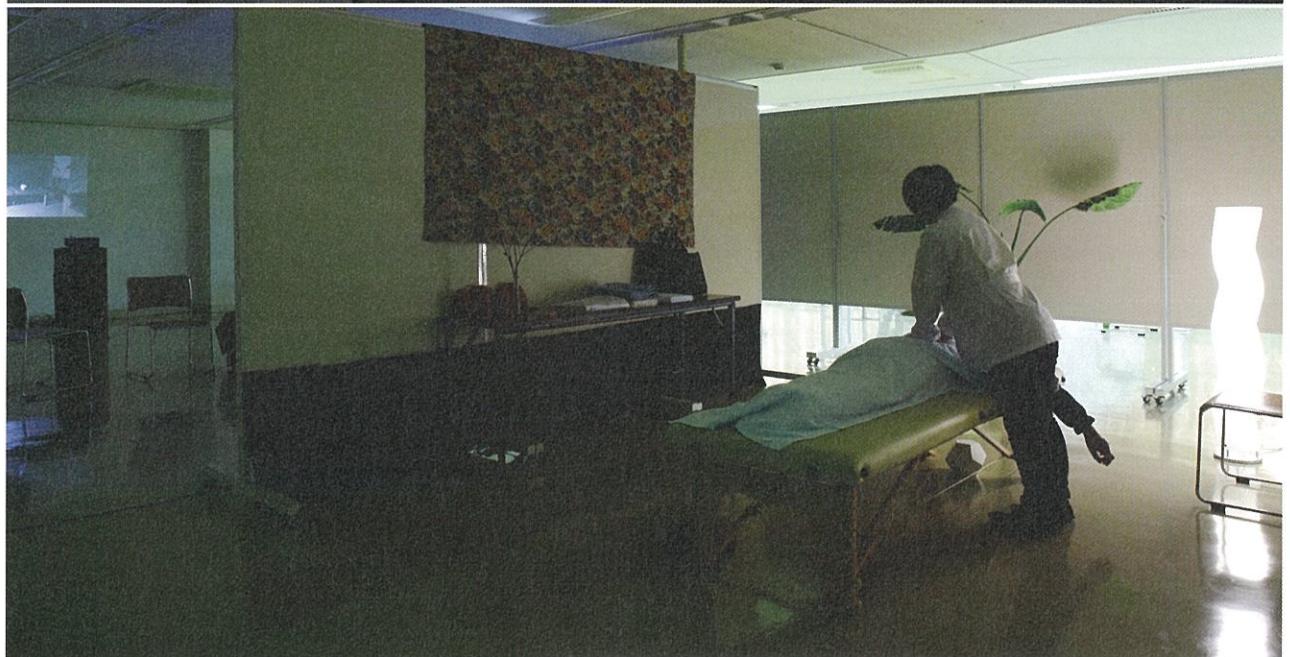
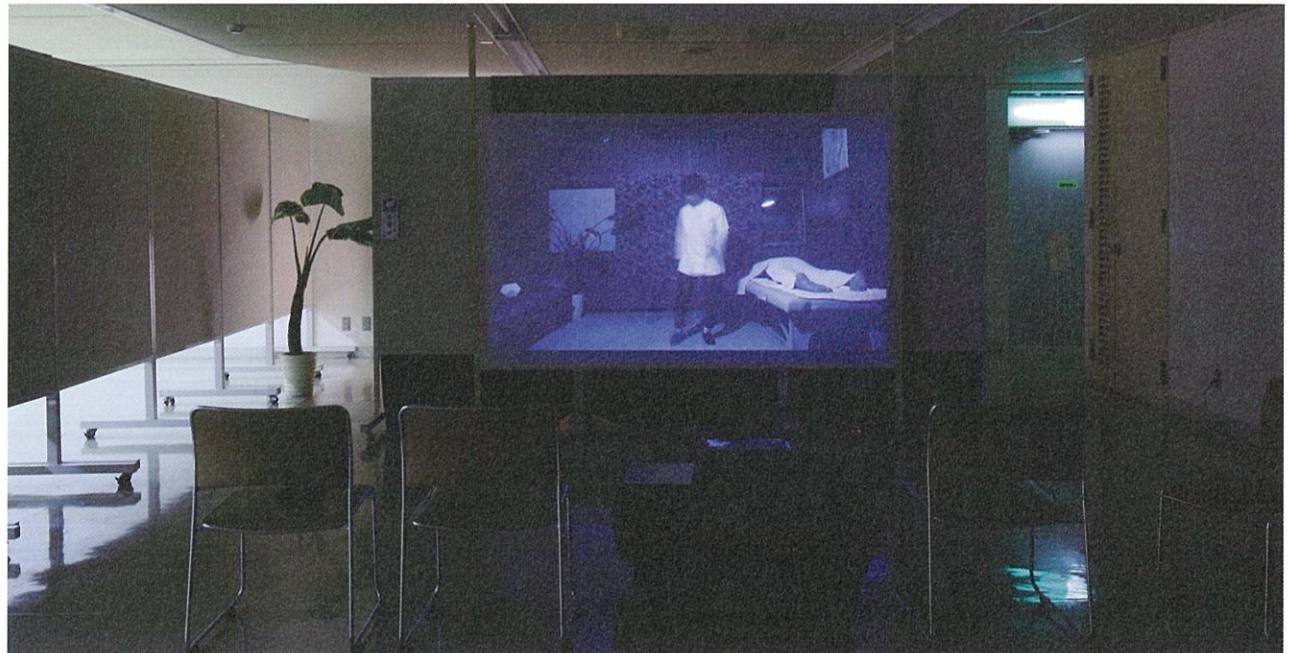
株式会社アートフロントギャラリー, VIC, 手塚一郎, 自然食糧品店グルッペ吉祥寺店・三鷹店, Art Center Ongoing





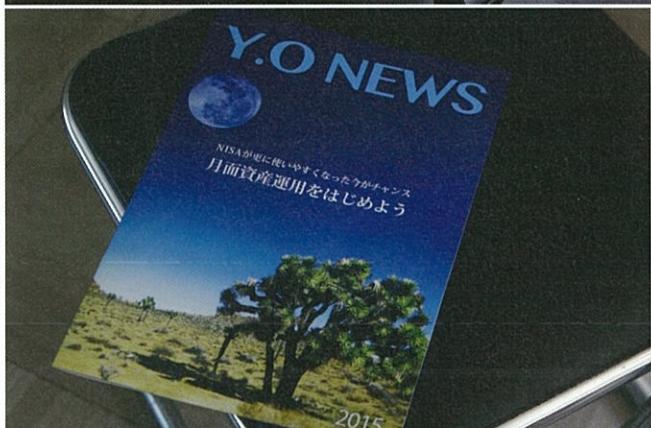
泉太郎 Taro Izumi 《こけしはひとりでに山を越えない》

古めかしいアパートの一室を舞台に、泉太郎さんのインスタレーションが展開されました。部屋の真ん中で目隠しをして、皿の割れる音がするたびに、くるくる回る小人のような人たち。一見パーティー会場のように楽しげな雰囲気の中、また皿が割れる音が……。室内のあちこちに置かれたモニターの謎めいた映像と相まって、奇妙だけど心地よく、時間を忘れてしまいそうな不思議な空間になりました。(北川麻衣子)



和田昌宏 *Masahiro Wada* 《コブ》

薄暗い室内に流れる映像が、訪れる人々を静かに迎えます。モノクロームの画面では、男女3人が森の中で踊り続け、なぜか整体の場面も。効果的に使われたタップの音や音楽が鑑賞者をひき込みます。ふと気づくと、スクリーンの裏には映像に登場した整体師と施術ベッドが控え、マッサージチェアが置かれています。鑑賞者はだんだん身も心もほぐされていくかのようでした。（柳本紀子）



太田祐司 Yuji Ota 《月面資産運用制度 ビデオ講習会》

古びた部屋に入ると、会議室のようだが、何だか怪しげな空間が広がっています。訪れた人は、受付係から手渡されるパンフレットと講習ビデオを見て、「月面資産運用制度」の内容を初めて知ることに。いつたいどこまでが本当なのか…？ 隙のない“事実”を前に、判断力を揺さぶられる人、感嘆の声をもらす人。住宅街の中に潜む空間に、様々な反応が渦巻いていました。（掛谷泉）



出津京子 *Kyoko Idetsu* 《取るに足らない人生》

三鷹駅北口の広場で、出津京子さんによるライブペインツが行われました。「取るに足らない人生」と名付けられた作品は3日間をかけて描かれました。キャンバスには「夫に、『お前何しに地球に来たんだ?』『だれのおかげでカワイイ孫の顔が見れているの?』と言ったそうです。」というエピソードと車いすに座る老婆の姿が描かれました。通行者は街なかに描かれた女性の生涯に足をとめ、それぞれに思いを巡らせていました。(佐藤佳那)



山本 篤 Atsushi Yamamoto 《The physical cloud》

突如現れたインディーズアイドルの握手会。来場者はマネージャーからプロモーションビデオを告知する紙を受け取り、なぜかマネージャーとも握手。傍らには雲のオブジェが置かれ、チキンを無言で食べつづける怪しい撮影スタッフ(作家本人)の姿も。それを横目にアイドルと握手をします。雲の上の存在と握手する体験は人々に様々な反応をもたらしました。(平石直輝)



東野哲司 Tetsushi Higashino 《Karaoke Machine on the Floor》

自称「日本一ヘタな歌手」上床（うわとこ）敬子が経営する「レストラン喫茶上床」で展開された東野哲司の作品は、足を運んだ人を容赦なく巻き込むものでした。店内にはダンボール製の怪しげなカラオケマシーン。曲をリクエストするとスピーカーから聞こえてくるのは、作家の声による即興の伴奏でした。ヘンテコな伴奏に誰もが戸惑い、次の瞬間には笑いがこみ上げてきました。心地よく歌わせてはくれない手強いカラオケマシーンでした。（後藤響子）

TERATOTERA 情報の掲載にご協力いただいた媒体

TERATOTERAでは、今年多くの媒体各社様に情報掲載をご協力いただきましたので、ここでご紹介いたします。



新聞

毎日新聞、産経新聞、朝日新聞

TV

JCN 武藏野三鷹ケーブルテレビ

Radio

むさしのFM

WEB

CINRA.NET、朝日新聞デジタル、みんなの経済新聞、吉祥寺経済新聞、YAHOO! ニュース、YAHOO! 口コ、産経ニュース、イラストノート ON THE WEB、Time Out Tokyo、Walker plus 東京、goo ニュース、アーツスケープ、TOKYO ART BEAT、デート通、Tokyo Art Navigation、リライト、iko-yo、グータイム吉祥寺ライフ、ぴあ映画生活、Real tokyo、art gene、まちこみZAQ、マピオンニュース（順不同・敬称略）

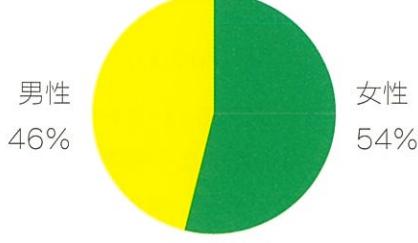
イベントに来る人って、どんな人？

地域密着型アートプロジェクトTERATOTERAは、どのような方々に興味や関心を持っていたのでしょうか。そして、どのような点を楽しんでいただいているのでしょうか。今後も本アートプロジェクトを継続し、より効果的に地域の芸術振興に貢献していくために、TERATOTERAでは来場者アンケートを実施しています。ここでは、2014年に行ったイベント「TERATOTERA SOUND FES.」、「クリーンセンターと遊ぶ」のアンケート結果をご紹介します。

アンケート結果が、美術関係者のみなさまの、今後のプロジェクト改善における手がかりになるといいですね。（森聰史）

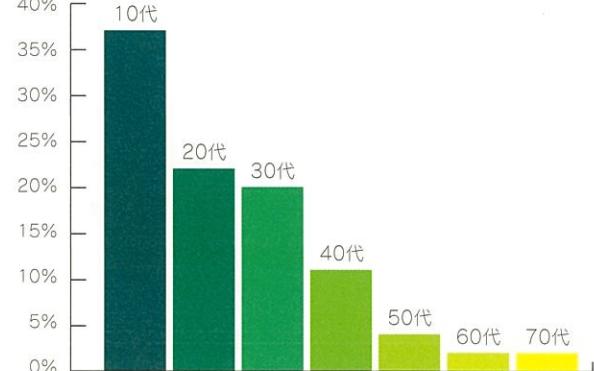
Q1 | 性別

イベントの内容にもよりますが、女性のお客さんがやや多いようです。



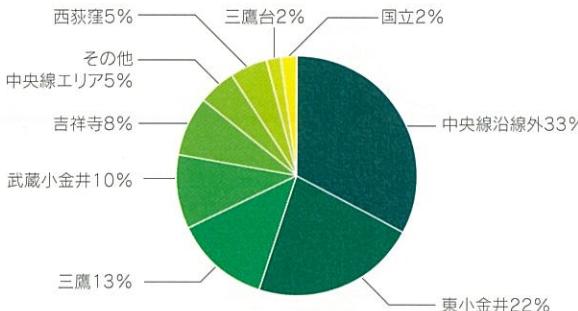
Q2 | 年代

現代アートを扱うことが多いこともあり、比較的若い世代に支持されていることが見て取れます。イベントの内容にもよりますが、中央線エリアという地域性もあり、30代～40代の層も厚く、ファミリーでの来場も多く見られました。



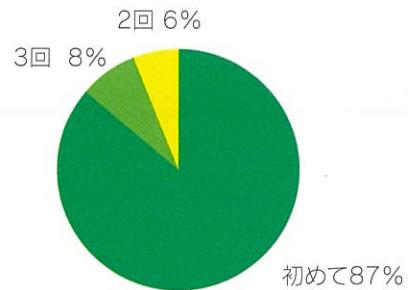
Q3 | 自宅の最寄り駅

「TERATOTERA SOUND FES.」の開催場所が東小金井駅近くであつたため、東小金井からの来場者が多くなっています。ただ、中央線沿線外からの来場者も全体の3分の1を占めていることから、都内全域でイベントが認知されていることが見て取れます。このことから、ソーシャルメディアやWEB媒体での露出も集客に大きな影響を与えていえると言えるでしょう。



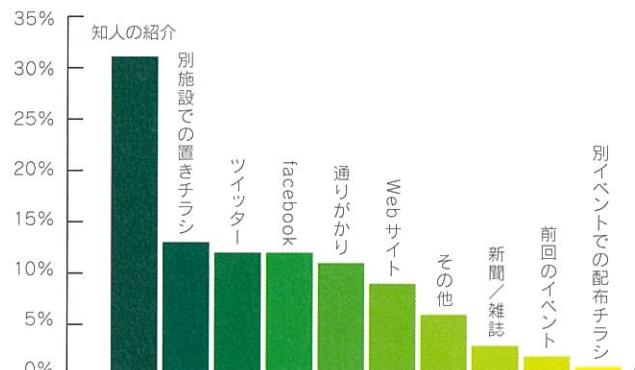
Q4 | 過去、TERATOTERAイベントに参加した回数

リピーターの割合が14%となっており、決して高いとは言えない数字だと思われます。イベント毎にジャンルや参加アーティストが異なることが要因とも考えられます。



Q5 | 参加のきっかけ

知人の紹介で参加を決めている来場者が圧倒的に多いことから、人的ネットワークを活かした告知活動が非常に重要であることがわかります。アート関連施設等に置かれたチラシを見て参加した方に加え、ソーシャルメディアでの認知がきっかけとなっている来場者も多いようです。また、通りがかりに参加した来場者が全体の10%程度であることから、目的を持って来場している人の割合が非常に高いことが見て取れます。



来場者の感想(一部抜粋)

ポジティブ (クリーンセンターと遊ぶ)

- ・子どもたちの即興音楽も楽しかった。こんなこともできるんですね。捨てられないもの…もそれぞれほほえましいですね。
- ・「すべてたいけどすてられないもの」皆、愛情のあるものをかかえているのが嬉しい気持ちになりました。
- ・古いものもあって宝の山みたいで面白かったです。

ポジティブ (TERATOTERA SOUND FES.)

- ・とても楽しめました。音楽と影絵ステキでした。ありがとうございます。
- ・時々通る電車の音と演奏が良い具合に混ざり合っていて良かったです。
- ・普段聴かないジャンルの音楽だったの新鮮でした！
- ・最高でした。東小金井もっと好きになりました。
- ・色んな人がアートに興味持てるようなイベントがある事がとても嬉しいです。

ネガティブ (TERATOTERA SOUND FES.)

- ・まず場所がわかりにくく、南口に行ってしまった。
- ・寒かったです。禁煙にしてほしいです。
- ・ステージにあたる部分が低くて見下ろす感じだと、前方2~3列の人しか演者を観られませんね。興味深いアーティストさんでしたが、演奏スタイルが全く見えず残念。

クリーンセンターのイベントでは、来場者は鑑賞を通して、日常の生活の中に新しい視点を気づかされるきっかけとなっています。また、SOUND FES.では、TERATOTERAだからこそ実現できたロケーションも、来場者に新しい経験価値を与えることができたと考えられます。作品展示を含めた複合イベントでもあったことから、来場者の興味の幅を広げることにも貢献できたといえるでしょう。一方、既存のアートスペースでのイベントではなかつたため、会場アクセスの案内や会場設計などには改善の余地があるようです。

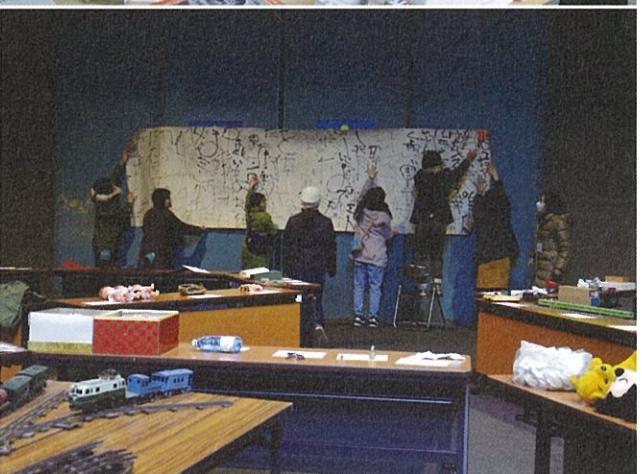


テラツコの活動風景

TERATOTERAの活動を支えるボランティアスタッフテラツコは、1年を通し開催される街中での展覧会、トークイベント、ライブ等、その企画・運営を担っています。

活動内容は、プロジェクトの広報全般、アーティストのサポート、イベントの記録など多岐にわたります。そして月に1度、企画の進行について話し合ったり、ゲストアーティストを招いて活動内容を伺う会議「テラツコ屋」を開催しています。イベントや会議が終わった後には、街に繰り出して宴を始める部隊も…！

現在活躍中のテラツコは10代から60代までのデザイナー、システムエンジニア、主婦、学生など年齢や経験も様々。バラエティ豊かな面々が1つのプロジェクトを実現すべく協働しています。



作家・ゲストプロフィール

P.04-P.05

途中下車の旅17@吉祥寺
THE LAST BAUS × TERATOTERA
10×10 映画と映像と

P.30-P.39

TERATOTERA祭り Encounter -邂逅-



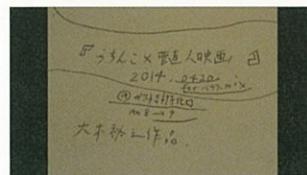
泉太郎 Taro Izumi

美術作家。主な展覧会に六本木クロッシング2013(森美術館)、リアル・ジャバネスク:世界の中の日本現代美術(国立国際美術館)、ヨコハマトリエンナーレ2011、など。



井出賢嗣 Kenji Ide

1981年横須賀生まれ、個人、恋愛、生活をテーマに立体インスタレーションで表現をする。近年は物事の裏側にある人間臭い不安定な情緒、センチメンタルな物語を事実、フィクションをない交ぜに制作した立体物とプロセスを示す映像とを合わせて発表している。



大木裕之 Hiroyuki Oki

小6まで保谷市柳沢の柳沢団地で育つ。東京大学工学部建築学科卒。50で建築をやる、映画監督。よさこい祭りのチーム「M・I」や、「たまたま」主宰。



小鷹拓郎 Takuro Kotaka

1984年生。ドキュメンタリー映像作家。2004年頃からアフリカや中東を放浪。2009年から2011年までリサイクルショップ「こたか商店」を経営。主なプロジェクトに、地域に隠れた歴史を発掘した「国立奥多摩秘宝館」、幻の集落を追ってお遍路修行の旅に出る「ようこそ!墮落お遍路村へ」、自らヘイトスピーチをして自分のお店を倒産させた「こたか商店やめろデモ」、ある噂を確かめるためにアフリカ大陸を旅した「ポテトとアフリカ大陸を縦断する」、妻を著名なアーティストと偽って国際芸術祭に出演させた「僕の代わり」に妻のオノヨーコがパフォーマンスをしますなどがある。主な展覧会に、「墮落お遍路村から学ぶ、愛と平和のティストビア」(Art Center Ongoing、東京)、2013年「大分現代美術展 循環」(フンドーキンマンション、大分)、「六本木アートナイト」(ガレージ酒場、東京)、2011年「ソーシャルダイブ 探検する想像」(3331アーツ千代田、東京)、2011年「Beyond Presure」(ミヤ

ンマー)、2009年「ジャカルタビエンナーレ」(ジャカルタ国立美術館、インドネシア)、2008年「KITA!! : Japanese Artists Meet Indonesia」(インドネシア)など。主な映画祭に、2010年「オーバーハウゼン国際短編映画祭」リヒトブルグ映画劇場、ドイツなど。



宮沢章夫 Akio Miyazawa

1956年生。劇作家、演出家、作家。遊園地再生事業団主宰。92年上演の戯曲「ヒネミ」で岸田戯曲賞を受賞、その後、舞台作品を多数発表したが、2010年「時間のかかる読書」で伊藤整文学賞(評論部門)を受賞、「牛への道」「考えない人」といったエッセイ、「ボブ・ディラン・グレーテストヒット第三集」など小説、「チエーホフの戦争」といった評論ほか著書多数。

P.06-P.09

途中下車の旅17@吉祥寺
THE LAST BAUS × TERATOTERA
世界中の何でもないところに、大事なものは何でもなく隠れている



柴田祐輔 Yusuke Shibata

1980年福岡県出身、2007年武蔵野美術大学大学院版画コース修了。現実世界の曖昧さや不確かさに着目した、映像作品、写真、物などで構成されるインスタレーションを国内外で精力的に発表。

<http://yusukeshibata.com>



鈴木光 Hikaru Suzuki

映像作家。1984年福島県生まれ。映像制作のキーワードは“集団”ではなくて“個人”にフォーカスすること。ボーラ美術振興財団の助成を受けて現在ベルリンに滞在。



地主麻衣子 Maiko Jinushi

1984年生まれ。映像、朗読、ドローイング、小説など様々な媒体で制作、発表をしている。Art Center Ongoingでの個展「ところどころ春冬」、「福岡インディペンデント映画祭」などで作品を上映。



浅井裕介 Yusuke Asai

1981年東京都生まれ。絵描き。テープ、ペン、土、埃、葉っぱ、道路用白線素材など身の回りの素材を用いて、キャンバスに限らず角砂糖の包み紙や紙ナプキンへのドローイング、泥や白線を使った巨大な壁画や地上絵のシリーズまで、あらゆる場所と共に奔放に絵画を制作する作家。



山本篤 Atsushi Yamamoto

1980年東京都生まれ。多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。ドイツに渡り2年間の制作活動を経て帰国。バラエティーに富んだ多彩な映像作品を中心に制作・発表している。



武川寛幸 Hiroyuki Mukawa

1979年長野県生まれ。映画館・吉祥寺バウスシアターに10年以上勤務。バウスシアターの名物イベント「爆音映画祭」や、閉館に向けた最後の企画「THE LAST BAUS」など、上映映画の広報、劇場イベントやプログラム進行まで、バウスシアターの事業全般に関わった。季刊カルチャーミー「ERECT Magazine」の編集にも関わる。



和田昌宏 Masahiro Wada

1977年東京生まれ。ゴールドスミスカレッジ・ファインアート科を卒業。彫刻、インスタレーション、パフォーマンス、映像を主な表現媒体として作品を制作している。

細川葉子 Hako Hosokawa

福井県武生市生まれ。出版スタジオ勤務後フリーランス。美術館でのカタログ撮影には、水戸芸術館「クワイエット・アテンションズ 彼女からの出発」(高嶺格のクールジャパン)丸亀猪熊弦一郎現代美術館「あそびのつくりかた」など。

TERATOTERA 祭り Encounter —邂逅—



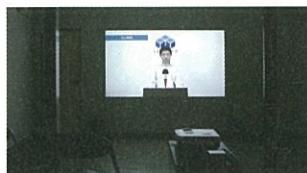
泉太郎 Taro Izumi

→ P.44 参照



出津京子 Kyoko Idetsu

1986年東京生まれ同在住。2009年多摩美術大学卒業。巨大なキャンバスに、身近な人から街ですれ違つた人まで、自身とどこかで繋がりのある人物を油絵の具を使い描く。キャンバスの側には、描かれた人物にまつわるエピソードがカッティングシートを用いて切り貼りされ、絵と文字とともに展示する。個展、2012年「こないだ見た風景」Art Center Ongoing。その他、2012年「ここから見える景色は最高」東京都美術館、2011年「Ladies & Gentlemen」小金井アートスポットシャトー2Fなど。



太田祐司 Yuji Ohta

1980年東京都生まれ、練馬区在住。2009年東京造形大学絵画科卒業。2011年東京芸術大学修士課程修了。『嘘』をテーマに作品を制作。使用するメディアは様々で、社会に対する批評性や、表現におけるifikションの問題、意味の攪乱などの要素を孕んでいます。個展、2011年「ジャクソン・ボロック新作展」AIKOKO GALLERY。グループ展、2013年「VOCA展2013」上野の森美術館、2012年「第15回岡本太郎現代芸術賞展」川崎市岡本太郎美術館、他、多数。



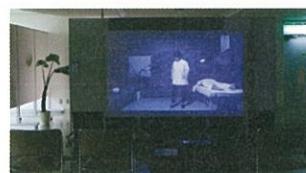
東野哲史 Tetsushi Higashino

1976年滋賀県生まれ。武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業。非生産的生産活動という名目のもと、単なる思いつきや日常の取るに足らないものごとに対してのレスポンスを制作の起点として、インスタレーション、ビデオ、Web、パフォーマンスなど、メディアを問わず展開する。2013年「東野哲史のサウンド・インスタレーション」Art Center Ongoing(東京)、2004年「By the Sweat of Your Brow」Kunstkerk(ドートレヒト)など。



山本篤 Atsushi Yamamoto

→ P.44 参照



和田昌宏 Masahiro Wada

→ P.44 参照



ジム・オルーク Jim O'Rourke

1969年シカゴ生まれ。13歳でデレク・ベイリーの音楽と出会いギターの即興演奏に開眼、一方で小杉武久と共にマース・カニングハム舞踊団の音楽を担当、現代音楽とポストロックの橋渡しをする。超現代的アメリカーナ『Bad Timing』(1998)、フォークやミニマル音楽をミックスした『Eureka』(1999)を発表。2004年、Wilcoのプロデューサーとしてグラミー賞を受賞。近年は東京に活動拠点を置き、くるり、カヒミ・カリイ、石橋英子、坂田明、大友良英、山本精一、ボアダムスなどとの共同作業から武満徹作品や映画音楽まで多彩な作品をリース／プロデュース。



指輪ホテル Yubiwa Hotel

羊屋白玉 Shirotama Hitsujiya

1967年北海道生まれ。「指輪ホテル」芸術監督。劇作家、演出家、俳優。主な作品は、2001年同時多発テロの最中ニューヨークと東京をブロードバンドで繋ぎ、同時に上演した「Long Distance Love」。2006年北米ヨーロッパをツアードした「Candies」。2011年アメリカ人劇作家との国際協働製作「DOE」。2012年ブラジル4都市をツアードした「洪水」。2013年瀬戸内国際芸術祭では海で、2014年より東京文化発信プロジェクトにおいて「東京スープとブランケット紀行」始動。06年、ニュースウイーク日本誌において「世界が認めた日本人女性100人」の一人に選ばれ表紙を飾った。www.yubiwahotel.com



北川フラム Fram Kitagawa

1946年新潟県生まれ。東京芸術大学美術学部卒業。「アントニオ・ガウディ展」、「ファーレ立川アートプロジェクト」等をプロデュース。地域づくりの実践として、2000年にスタートした「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、「水都大阪」(2009)「瀬戸内国際芸術祭2010,2013」では総合ディレクターをつとめる。2006年度芸術選奨文部科学大臣賞。2007年度国際交流奨励賞・文化芸術交流賞。2012年オーストラリア名誉勲章・オフィサー受賞。



巻上公一 Koichi Makigami

1978年にヒカシューを結成。ヴォーカリスト、リーダーとして精力的にライブを行っている。演奏は、口琴、テルミンなどの特殊なものから、コルネットや尺八など複数の楽器をこなす。ヴォイスパフォーマーとして国際的に高い評価を得ている。トゥバ共和国の喉歌ホーメイの研究や招聘公演、声の実験的フェスティバルやワークショップの開催、「JAZZ ART せんがわ」のプロデュースなど、活動は幅広い。

P.10-P.17

途中下車の旅18@東小金井
TERATOTERA SOUND FES.
—音とアートが高架下に舞う—



滞空時間 影絵部 *Taikuhjikang*

川村亘平斎(ガムラン/影絵)、さとうじゅんこ(唄)
GO ARAi(ヴァイオリン)、トンチ(スティールパン)

インドネシアの青銅打楽器「ガムラン」と「影絵」を駆使して、唯一無二のパフォーマンスを繰り広げる芸術家・川村亘平斎のソロユニット。2012年東南アジアツアーやを成功させ、2013年2nd album「RAINICHI 来日」を発表。小山田圭吾(cornelius)、木津茂理(民謡歌手)等豪華ゲストが参加、音楽シーンに強烈なインパクトを与える。鎌倉宮蔵能では細野晴臣等と共に演じ絶賛される。

<http://taikuhjikang.com/>



灰野敬二 *Keiji Haino*

1952年5月3日、千葉県市川市生まれ。幼少時川越市で育つ。1971年、エドガー・アラン・ポーの小説からくる「ロスト・アラーフ」に加入。ノイズ系ロック、フリージャズ、即興演奏のアーティストが集う吉祥寺ライブハウス「マイナー」にて即興演奏を始める。1975年よりソロのギタリストとして活動開始。1981年アメリカ公演、90年代、即興演奏ゲーム形式「COBRA」発明者、ジョン・ゾーンと共に演。どんなに激しく感じたとしても、灰野敬二の発する轟音と静寂とその間、全てにおいて何時も疊りがなくクリアで透き通っている。それは彼を歓愛するバンド、ソニック・ユースにも共通するものがあるかも知れない。魂の現れである故に必然と身体全身で表現されるパフォーマンスは唯一無二の有形物の暗号。それは音楽そのものとも呼べる。ロック、サイケデリック、ノイズミュージック、フリージャズ、フリーミュージック、全てのボーダーを超えて紡がれる魂の言葉、ブリミティヴな即興性を持つ演奏は現代に生きる眞の音楽家そのものの姿であるといえよう。

<http://www.fushitsusha.com/>



山川冬樹 *Fuyuki Yamakawa*

ホーメイ歌手／アーティスト。1973年ロンドン生まれ。音を介した世界と身体の関わりを探求しながら、音楽、美術、舞台芸術の分野で活動。心音など身体内部で起きている微細な活動や物理現象をテクノロジーによって拡張するパフォーマンスで、これまでに15カ国で公演を行う。展示形式の作品にはサウンド・インスタレーション「The Voice-over (2008)」などがあり、同作品は東京都現代美術館にコレクションされている。



林千歩 *Ohiko Hayashi*

2013年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了、同大学博士課程在籍。映像作品を中心に、写真・立体・平面・パフォーマンスなど、様々なメディアを使う。母と共に制作した衣装と過度なメイクを纏い、彼女自身が何者かに扮し出演する。映像はゲリラ的に撮影された物が多く、電車の中で待とハッピイヤが出会い何かが始まるものなど、不気味なものと笑いを組み合わせた様な何処か獣奇的な内容である。時に鑑賞者をも巻き込み、そこで生まれる何かを届けられた人たちに問いかける。



村田峰紀 *Mineki Murata*

1979年群馬県生まれ、前橋市在住。2005年多摩美術大学彫刻科卒業。自らの身体を駆使し、言語化することができない身体感覚を鑑賞者に示すことで強いインパクトを与えるゲリラ的なパフォーマンスや、その結果として産み出されるインスタレーション、彫刻を国内外で発表している。個展、2013年「パフォーマンス彫刻」GALLERY HASHIMOTO、グループ展、2013年「カゼイロノナハ」アーツ前橋、2010年「あいちトリエンナーレ2010 都市の祝祭」他、多数。



山下拓也 *Takuya Yamashita*

2010年名古屋造形大学美術学科総合造形コース卒業。2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。空間を占拠し、ポップで土俗的ともいえる立体作品を制作している。主な個展に、museum *phan*(山梨・中村キースヘリング美術館・2014)、UNDER35／2014 山下拓也(横浜・BankART studio NYK・2014)がある。

<http://takuya-yamashita.com/top>



武藤亜希子 *Akiko Muto*

2006年東京藝術大学大学院博士課程満期修了。個展／2009年「その部屋の奥の行き止まりの入口」(Art Center Onggoing)、グループ展／2011年「nowhere 一ここではないどこかへ」(Bunkamura Gallery)、2012年「越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭2012」(新潟)、2013年「あなたという私」(gallery COEXIST-TOKYO)、2014年「ワンダフル ワールド こどものワクワク、いつしょにたのしもう みる・はなす、そして発見! の美術展」(東京都現代美術館)

P.18-P.25

途中下車の旅19@三鷹
武蔵野クリーンセンター × TERATOTERA
クリーンセンターとあそぶ



藤浩志 *Hiroshi Fuji*

美術作家・十和田市現代美術館館長。1960年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、パブニアニーギニア国立芸術大学講師、都市計画コンサルタント勤務を経て1992年藤浩志企画制作室を設立。パングラデッシュビエンナーレ(グランプリ受賞)、サイトサンクタフェビエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭等の国際展の出品をはじめとしてインド、パキスタン、タイ、中国、韓国、台湾などアジア各地でのプロジェクトや国内の地域アートプロジェクトへの参加多数。<http://geco.jp>



山口とも *Tomo Yamaguchi*

日本廃品打楽器協会会長・打楽器奏者・写真家。つのだ☆ひろアシスタントとして音楽世界に入り、中山美穂・平井堅など数々のアーティストのツアーやレコードイングに参加。1995年より廃品からオリジナル打楽器を制作。「音楽=音を楽しむこと」をモットーに、廃品打楽器を使ったユニークなパフォーマンスが注目されている。一度見たら忘れられない希有なキャラクターが世間からの評価を受け、2003年4月からNHK教育テレビで放送された「ドレミのテレビ」では、ううあとともに進行役をつとめ、「ともとも」の愛称で親しまれ人気を博した。その他テレビ出演も多数。ガラクタに命を吹き込む打楽器奏者。

P.26-P.29

西荻レヂデンス



小鷹拓郎 *Takuro Kotaka*

→ P.44参照

JR中央線、高円寺駅から国分寺駅の周辺地域にアートのムーブメントを起こすべく継続してきたTERATOTERAの活動は、2014年度で6年目となりました。

これまでの活動は、ひとことで言えば「アートプロジェクト」となりますが、この記録冊子でご紹介したように、トークショー、音楽ライブ、演劇公演、大規模なアート展覧会と、年間を通して多彩なイベントを開催しています。

各プロジェクトの運営は、会場探しから始まり、アーティストへの出演依頼、備品の準備等々、企画段階から当日運営における作業の一つひとつを、ボランティアスタッフであるテラッコが担っています。

テラッコは折りに触れて集まつては、企画実現への一番良い方向性を探り、話し合いを重ねています。ときには互いの主張に納得できなかつたり、自信をなくしてがっくりしたりすることもありますが、最後には、作家たちが思い描く世界観の具現化に向けて、目を輝かせながら活動しています。

この活動に熱心に取り組む理由は一体何なのか。アルバイトをしながらテラッコとしてイベントの運営を担っていたわたしが、気づけば事務局長となり、生活の中心がTERATOTERAとなつた今、改めて振り返つてみました。

TERATOTERAがわたしを魅了するのは、同時代を生きるアーティストと共に展覧会を作り上げていくその過程です。

一心不乱に絵を描き続ける画家、打ち合わせには毎回遅刻するけれど唯一無二の作品を作り上げる憎めない作家。彼らの制作に取り組む姿勢や出来上がつた作品を傍らで見ていると、考え方や生き方は人それぞれ違つていい、という当たり前のことに気づかされます。

もしかしたら、アートプロジェクトがこれから担つていくべきことは、モノが売れる、街が活性化するなどといった目に見える「効果」ではなく、ひとりひとりの生き方の違いを認めていく楽しさを伝えていくことなのかもしれません。

これからもわたしたちは、今までに見たことのない作品や展覧会を作り上げていく高揚感に胸を躍らせながら、地道にTERATOTERAを育んでいきます。

今この記録冊子を手に取つていただいた皆様にも、ぜひ次回は紙面ではなく、体験としてその魅力を感じ取つていただければ、これほど嬉しいことはありません。

そして、これまでのすべてのプロジェクトの実現は、周辺地域の方々との出逢いとご協力あつてのものです。本当にありがとうございました。

今後も続いていくTERATOTERAの活動を見守り、またお付き合いいただければ幸いです。

TERATOTERA 事務局長 高村瑞世

TERATOTERA

主催

東京都

東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

一般社団法人Ongoing

ディレクター

小川希 チーフディレクター

國時誠 ディレクター

事務局

全体の把握・管理、チームフォロー、企画書作成、会場との調整、スケジュール進行管理

小澤恭子(たこ) 高村瑞世

千葉佐奈子 東晶子

広報

出演者情報の収集整理、広報の配布先リスト・スケジュール管理、プレスリリース配信

岩渕真紀 大谷優佳 高野みき

中村孝士 宮久実那 森聰史

記録

定例会などの議事録作成、記録冊子編集

伊藤真希子 石山律 西岡一正

野崎美樹 柳本紀子

イベント

作家の写真・プロフィール収集、作家との作品プラン調整、作品制作補助

阿部侑加 稲橋誠二 掛谷泉

加藤裕士 角野嵩宜 川野詩歩

木下美奈子 後藤鬱子 北川麻衣子

北村美樹 佐藤佳那 茂原奈保子

滝本亞魅子 田中秀康 遠山尚江

常田さやか 徳田絵海 畑中さおり

花谷晶 町田紗記 吉田絵美

TERATOTERA2014年度 記録冊子

編集 | 西岡一正, 千葉佐奈子, 高村瑞世

監修 | 小川希

デザイン | 原田光丞

写真 | Hako Hosokawa, Yui Kato, テラッコ

印刷・製本 | ハシモトコーポレーション

発行 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室

〒130-0026 東京都墨田区両国3-19-5 シュタム両国5階

Tel:03-5638-8800 Fax:03-5638-8811

※「東京文化発信プロジェクト室」は、

2015年4月1日より「アーツカウンシル東京」と組織統合する予定です。

地域連携

地域連携方法の考察、周辺地域施設との協働イベントの企画運営、チラシ街置き

大竹瑞栄 北村美樹 塚本加世子

照山あづさ 兵藤ちあき 前川順子

撮影

各イベントのスチール、映像の撮影

Yui Kato 松岡雄大 Hako Hosokawa

TERATOTERA祭り 当日ボランティア

TERATOTERA祭りの作品搬入補助、会期中の展示会場監視・運営

石井史将 石橋美咲 岡野麻由子

金井麻綾 北嶋ゆりや 橋川由里絵

工藤優花 斎藤春菜 徳久朋子

西鍛冶麻岐 二宮ゆり 橋本春佳

平石直輝 室内直美 矢部有実子

安原尚代

東京文化発信プロジェクト室

森司(東京アートポイント計画ディレクター)

三田真由美(東京アートポイント計画プログラムオフィサー)

佐藤李青(東京アートポイント計画プログラムオフィサー)

問合せ先

一般社団法人Ongoing

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-8-7

Tel:090-4737-4798

Email:info@teratotera.jp

<http://teratotera.jp>

TERRA/A

TERRA/A

TERRA/A